

全酪連会報 12

2025 DEC No.723

若手後継者の本音／
皆川侑平さん

第16回 全日本ホルスタイン共進会
開催

第29回 ロイヤル・ウィンターフェア視察と
カナダ酪農視察研修

令和7年度 製造技術体験発表会・研修会を
開催いたしました

酪農業に対する理解醸成活動報告❶

日本酪農見て歩紀／
佐藤牧場(北海道枝幸町)

酪農トピックス／
北海道酪農青年女性会議
牛乳が飲みたくなる理由は「美味しいから」
(札幌)ほか

全酪新報ダイジェスト版

全酪連ギフト商品について

栄えある秋の叙勲

全酪連 定期刊行物のご案内

バックナンバーはQRコードから閲覧いただけます。



全酪連会報

⇒ <https://www.zenrakuren.or.jp/kaiho/>

COWBELL

⇒ <https://www.zenrakuren.or.jp/cowbell/>



全国酪農業協同組合連合会

今回ご紹介するのは、千葉県船橋市にて酪農を営む皆川牧場の皆川侑平さん（28歳）です。所属する八千代酪農農業協同組合は令和7年11月現在で酪農家戸数28戸、令和6年実績で出荷乳量14,647tです。

牧場の紹介

皆川牧場ではホルスタイン、ブラウンスイスなどの搾乳牛110頭をはじめ、子牛含めた



▲ 皆川侑平さん

今回は、千葉県船橋市 皆川牧場の後継者 皆川侑平さんにお話を伺いました。

全体で150頭の牛を飼養しており、牛たちがストレスを感じないように、自由に動き回れるフリーバーン方式の牛舎を採用しています。

搾乳部門は侑平さんを中心に、日本人従業員2名、外国人従業員2名の5人体制で、チーズ工房はお母さんと叔母様、奥様のほか、日本人スタッフを加えて日々の作業をおこなっています。

また令和元年には子牛牛舎に哺乳ロボットを導入しており、子牛一頭一頭の健康状態、その日の哺乳量や直近数日の様子にあわせたプログラムによって哺乳を行っています。2か月齢の出荷までスモールを含めて平均で20頭、多い時には30頭近くを子牛牛舎にて飼養しているため、哺乳ロボットの導入はかなりの効率化を担っているとのこと。

就農までの経緯

侑平さんにはひとつ上にお兄さんがおり、家業である牧場はお兄さんが継がれるものだと思っていたと言います。実際、学生時代には経営学といった分野を学んでおり、酪農家になるという選択肢はほとんど意識していませんでした。

その転機が訪れたのは大学2年生の頃。お兄さんから酪農をやりたいかと改めて問われ、本

来酪農とはまったく違う分野を学んでいたにも関わらず、酪農の道を歩むことを決意されたとのこと。

そこから大学卒業後、千葉県いすみ市の高秀牧場にて2年間、従業員として就業したのち北海道のベイリッチランドファームにて2か月、そしてアメリカにて1年半研修をおこなったのち実家の皆川牧場に戻り、酪農家としての人生をスタートさせたとのこと。そしてこの高秀牧場での経験が、侑平さん、そして皆川牧場の現在に大きくつながっています。

チーズ工房

牧場の一角にある工房では、搾られた生乳を使用して、手作業で製造しています。製品のラインナップはモzzarellaをはじめ、カチョツタ、スカモルツァ、リコッタ、ロビオラと実に多彩で、それぞれに新鮮な生乳をぜいたくに使った、牧場ならではの逸品となっています。

これらのチーズは、地域での販売の他に、三越、大丸、東武デパートといった有名百貨店でも取り扱われており、高い品質が評価されています。侑平さん曰く、値段とは難しいもので「安く」値段をつけるとその分「安く」見られてしまい本来の価値が伝わらなくなってしまう。良いものを良い価格で、製品の価値を正しく発信



▲ フリーバーン

若手後継者の 本音

Vol.78

〔経営概況〕

所 属 八千代酪農農業協同組合（高橋秀行代表理事組合長）

家族構成 皆川侑平さん、お母さん、叔母様、奥様

飼養頭数 搾乳牛 110頭、全体 150頭



▲ ご自宅横のチーズ工房



▲ お土産にいただいたモッツァレラチーズ
ホームページでも販売しています！

牧場ごとの強みを持つ！

していくことが大事だと話しています。
また、工房でつくられたチーズはインスタグラムやホームページでも紹介されています。丁寧な手仕事と自家生乳のこだわりから生まれたチーズ、ぜひ皆さんもご覧になってみてください！

今後の展望

近頃は飼料価格の高騰も続き、多くの酪農家にとって頭を悩ませる問題となっています。皆川牧場も例外ではなく、自給飼料を増やすにも広い畑を持っているわけではないため思うようにいかない部分もあるといいます。

これからを考えると、今まで通りに搾っているだけでは厳しい時代になってきており、広い畑を持つ酪農家は自給飼料でコストを抑えるこ

とができ、また機械に詳しく高い技術を持つ人なら、より効率的に作業を進めることができます。そんな「牧場ごとの強み」を持つことが、これからの酪農にはますます大切になっていくと感じているとのこと。

その上で侑平さんが目指したいと考えているのが6次化のさらなる充実です。船橋という都市近郊にある立地の強みを生かし、観光牧場のような大規模展開ではなくとも、牧場に来た人がゆったりと牛を眺めながら過ごしつつ、チーズやジェラートを楽しめる。6次化での収益を上げるとともに多くの人に牧場の魅力を直接感じてもらえる牧場を目指していきたいとのことでした。

最後に

この度はご多忙の中取材にご協力いただきありがとうございました。取材後の写真撮影に加え、お土産にと自家製のモッツァレラチーズまで持たせていただきました……！

今回の記事にて、皆川牧場の魅力、そして酪農にかける想いを少しでも広めさせていただくことができれば幸いです。

今後とも、皆川牧場のますますの発展に私自身も微力ながら協力していければと思います！



第16回

全日本ホルスタイン共進会 開催

去る10月25日(土)から26日(日)の2日間にわたり、第16回全日本ホルスタイン共進会が北海道勇払郡安平町早来の北海道ホルスタイン共進会場において盛大に開催されました。前回大会(第15回)は新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となっており、今回は実に10年ぶりの開催となりました。

開催期間の2日間は、朝晩の冷え込みはありましたが、日中は日差しが心地よく穏やかな天候に恵まれました。会場には全国の酪農家の皆様や関係者など約3万3千人が来場し、比較審査には全国各地域の予選を勝ち抜いてきた386頭(ホルスタイン種358頭、ジャージー種28頭)が出場しました。



初日の25日は、主催者を代表して(一社)日本ホルスタイン登録協会松島喜一副会長が開会宣言を行い、続いて審査団を代表して(独)家畜改良センター入江正和理事長より挨拶の後、第1部から第13部までの比較審査が行われました。同日夕方からはゴールデン・ナショナルセールが行われ、会場は訪れた多くの来場者で盛り上がりを見せました。結果は、38頭が出品され最高価格が400万円、平均価格は147万円で取引されました。

2日目の26日は、第14部から第20部の比較審査の後、最高位賞の決定審査が行われました。頂点となる最高位賞には北海道遠軽町の木村吉里さんが出品したサニーウエイアストロマツカチエン号(第16部・ホル種経産6歳以上)が輝き、堂々たる体型と乳用特性が高く評価されました。審査会場は全国から集った出

品者や観客の拍手に包まれ、終始熱気にあふれていました。

会場敷地内では「酪農資材器具展」が10月23日から26日の4日間開催され、酪農関連企業・団体92社がブースを設置し各団体が飼料、搾乳機器、牛舎設備、防疫・衛生資材などの最新技術製品や独自サービスの展示が行われ、製品紹介や販売、情報交換が行われました。野外ではキッチンカーブースが設置され、フードフェスタを彷彿させる賑わいを見せていました。

本会は酪農資材器具展・技術交流会において(一社)全国酪農協会と共に企業出展を行い、クイズフリー、ノベルティの配布などを通して全酪連



●入賞結果

ホルスタイン種

	部 門	名 号	出品県	出品者氏名
最 高 位	16 部	サニーウエイ アストロ マツカチエン	北海道	木村吉里さん
名 誉 賞	1～6 部	ハッピーライン RT アンテロープルル	北海道	内田喜久男さん
	7～13 部	ハイロード ラムダ エクスタシー	北海道	小椋淳一さん
	14～16 部	サニーウエイ アストロ マツカチエン	北海道	木村吉里さん
準名誉賞	1～6 部	セジス ビューティ クリーメル サン ユニクス	北海道	高橋喜一さん
	7～13 部	グランシャリオ ラム ウオーク ダン アンネリーゼ ET	北海道	木村有斗さん
	14～16 部	エリー スマイル ユニキユア ET	北海道	(株)エスティリアデイリーサービスさん

ジャージー種

	部 門	名 号	出品県	出品者氏名
名 誉 賞	17～20 部	エムコラボ カジノ シエーングランツ	北海道	中嶋めぐみさん
準名誉賞	17～20 部	SF カジノ M チエリー	北海道	(株)瀬牧場さん



「酪農まるごとカレー」を味わっていただけるように提供販売が行われました。酪農家が大切に

グループの事業アピールを実施しました。また、BIPROGY株式会社・国立大学法人広島大学と共同で開発に取り組んでいる牛体尺アプリケーションの紹介を行いました。牛体尺アプリケーションは3Dセンシング／画像解析技術を用いて、スマートデバイスの写真撮影から牛の体尺・体重を測定するものです。牛体尺・体重データをより身近なものとし、さらにそれらのデータを活用した飼養管理のサポートまでを目指しています。

また、敬讃牛^{けいざんぎゅう}を使ったレトルトカレー「酪農まるごとカレー（チーズインハンバーグカレー）」を初めて販売しました。現役を退いた乳牛の肉

敬讃牛^{けいざんぎゅう}を使ったレトルトカレー

育てた牛を、最後まで無駄にせず、その価値を広く消費者の方に伝える事が出来た良い機会になりました。



※全酪連では「経産牛」を「敬讃牛」と呼びます。搾乳牛に敬意を表してこの名称を採用しています。

今回の共進会は、単に乳牛の優劣を競う場にとどまらず、全国の酪農現場で培われた繁殖・哺育・飼養管理などの技術交流の場としての役割を大きく果たしました。審査団は、乳牛の体型や乳房の構成だけでなく、持続的な生産性や健康寿命、改良方針への適合性にも注目し、時代に即した評価基準を示しました。気候変動や飼料価格の高騰など、酪農を取り巻く環境が変化する中、今後の乳牛改良は「より健康で長く活躍できる牛づくり」が重視されること

ジャッジング&リードマンスクールやリードマンコンテストも開催されました。全国各地の高校生によるリードマンコンテストでは、高校生たちが真剣な表情で牛と向き合う姿が多く、観客の感動を呼びました。次世代を担う若者たちがこの舞台を通じて酪農の夢と誇りを実感する姿は、全国の酪農関係者に大きな希望を与えました。

今大会は、全国の酪農家が再び一堂に会し、乳牛改良技術や乳牛を通じて交流が出来る貴重な場となり、改めて酪農が持つ力と未来への可能性を強く感じさせる大会となりました。

次回大会も全国の酪農家、関係者団体、消費者が集い、お互いの理解を深める大切な場所として、さらに盛り上がる事を期待します。



ロイヤル・ウィンターフェア視察と カナダ酪農視察研修

令和7年11月11日(火)から16日(日)までの6日間、(一社)全国酪農協会主催の「第29回 ロイヤル・ウィンターフェア視察とカナダ酪農視察研修」が開催されました。



行程表

- 11月11日(火) 羽田空港－トロント空港
- 11月12日(水) 牧場視察など
- 11月13日(木) チーズ工房 視察・ナイアガラの観光
- 11月14日(金) ロイヤル・ウィンターフェア2025 視察
- 11月15日(土) トロント空港発
- 11月16日(日) 羽田空港着(視察団解散)



11月11日(火) 視察団合流／カナダ入国

第51・52回 全国酪農青年女性酪農発表大会の発表者5名と、発表者のご家族や従業員、組合職員など総勢21名が羽田空港に集合し、羽田空港第3ターミナル会議室で団結式を行いました。参加者全員の自己紹介の後、この視察団の団長を務めていただいた中村俊介全国酪農青年女性会議委員長より、旅の安全と有意義な視察になることを祈念した挨拶があり、一行は機内へと向かいました。

飛行機は18時50分、定刻通りに羽田空港を出発。約12時間のフライトを経て、現地時間で同日の17時頃に無事トロント空港に到着。空港近くでのディナー後、トロント市内のダウンタウンエリアにあるホテルに到着し、長い初日が終了しました。

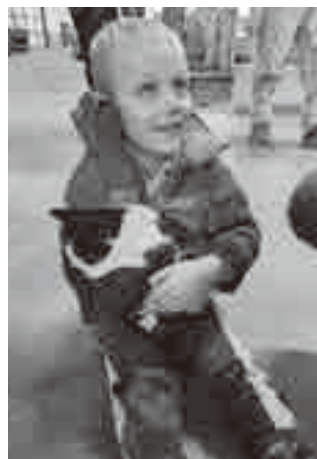
11月12日(水) ボスデール牧場視察

1948年にオランダより入植し、1958年に酪農を開始したボスデール牧場は、フリーストール牛舎とタイストール牛舎を併用した経産牛だけで約190頭を飼養する牧



▲ フリーストール牛舎

場です。
第一印象として牛舎は明るく清潔で、牛体も非常にきれいに保たれていました。遺伝改良に熱心に取り組まれており、シヨウタイプ
の牛が多く揃い、牛群は穏やかな
がら、何か独特なオーラを感じま
した。



ボスデール牧場は、4人兄弟とその家族による共同経営で、「酪農経営を続けていくモチベーションは？」という質問に対し、「家族の強い絆だ」というお言葉が印象的でした。今回の視察中も、奥様・娘さん・息子さんも視察団を案内してくれ、子供たちがご両親とふれあう様子や、牛舎内のネコと戯れ、敷料の砂場の堆積場所で遊んだりする様子は、非常に心がほのするものでした。小さい頃から牛舎で遊び、学び、ご両親や親戚が仕事をする姿を間近に見て育ち、代々牧場を守っていく、家族経営型の酪農の神髄を見た気がしました。

この子供たちはきっと、今はまだ自分たちの牧場がどれほど優秀な飼養管理や経営を行っているのか知る由もないのでしょうが、これから少しずつ成長し、酪農を知り、酪農仲間や地域の方々と交流



▲ フリーストール牛舎



▲ ♥の斑紋を持つ牧場のシンボル牛

し、酪農経営を学び、そして経営継承する頃には、自分たちがどれだけ素晴らしい酪農家のご両親のもとに生まれ育ったのかを知り、心から誇りに思うことでしょう。

サミットステーション牧場 視察

1939年にチエコスロバキアより入植し、1947年に乳牛15頭から酪農を始めたサミットステーション牧場は、経産牛約450頭、未経産牛約550頭を飼養する、大規模

なフリーストール牛舎という印象でした。飼槽に給餌されたTMRの量が多く、高品質な自給飼料をふんだんに使用したTMRを飽食させることが、高い乾物摂取量と個体平均乳



▲ サミットステーション牧場の行動指針

1. 私たちは、市場が求める健全で栄養価の高い製品を、利益を確保しつつ生産します。
2. 私たちは、すべての牛の毎日のニーズを満たします。動物福祉は最も重要であると考えます。
3. 私たちは、関わるすべての人々の成長と発展を促し、育てていきます。
4. 私たちは、環境を守り改善するよう努め、未来の世代により良い形で引き継ぎます。
5. 私たちは、地域社会に積極的に貢献する存在となります。

量の維持に大きく寄与しているの
らうと感じました。

もうひとつ印象的だったのは、
パーラー横に牧場のミッシュンステ
ートメント（行動指針）が掲げられ
ていたことです。多数の従業員を抱
える牧場において高いレベルの経営
を維持するために、理念や行動指針
を掲げ、浸透・実践していくことが
重要なのだと感じさせられました。

併設された直売所は2年前から営
業を開始しており、外観・店内とも
お洒落な雰囲気、平日の昼間にも
関わらず、地元の利用客で賑わっ
ていました。牛乳・コーヒー・ミ
ルク・エッグノックなどは、自社

◀ トイレの壁
紙もお洒
落でした

▼ 店内の
様子



のロゴマークが刻印された瓶入
り、空き瓶を返却するとデポジット
（保証金）が返却されるという仕組
みが取られていました。環境への配
慮に加え、瓶を返却がてらまた買い
物をしていただく良い仕組みだと感
じました。

また、牛乳・乳製品だけではなく、
地域の野菜や果物を使用したピ
クルスやジャムなど、数多くの商品
を販売していることも特長的で、地
域の農業生産者と消費者との架け橋
となり地域貢献を果たす側面も見ら
れました。

カナダのクォーター（生乳生産枠）
制度では、生乳出荷量の枠は定めら
れているものの、自社で処理・販売
する部分は除外され、自社の処理量
が伸長すれば増頭や生産枠の売買な
ども検討できるため、この制度化に
おいて利益を最大化していくには、
6次産業化の取り組みは有効な手段
であると感じました。

11月13日 木

アップパーカナダチーズ工房 視察

2005年に設立され、今年は20
周年の節目となるアップパーカナ
ダチーズ工房では、最も人気のあるナ

▼ 外観・看板



▲ 店内の様子

イアガラゴールド（10ヶ月熟成）を
はじめ、種類や熟成期間が異なる
様々なチーズを試食させていただき
ました。当初、4種類の試食予定の
ところ、追加で3種類の試食をさせ
ていただき、皆それぞれの感想や好
みを話していました。

印象的だったのは、チーズカード
です。チーズカードとは、乳がレン
ネットにより凝固してできたチーズ
の基本となる固体部分です。そのま
ま食べたり、サンドイッチに挟んだ
り、様々な料理に使われる、カナダ
やアメリカ北部ではスーパーでも一
般的に販売されているポピュラーな
チーズのようです。プーティンとい
うフライドポテトにチーズカードを

乗せ、熱々のグレイビーソースをか
けたカナダの国民食があるそうで、
滞在期間中にぜひ食べてみたいと思
いました。また、メープルの木で燻
製したスモークチーズもあり、カナ
ダ人のメープル愛を感じました。

11月14日 金

ロイヤル・ウィンターフェア 2025 視察

いよいよ、メインとなるロイヤ
ル・ウィンターフェア。毎年11月上
旬～中旬にオンタリオ州・トロント
にあるExhibition Place（国際展示
場）で開催される、国内外から出展
者・来場者を集める大規模農業イベ
ントです。家畜品評会（乳牛・馬・
羊など）や動物や農産物展示、農
業・食育やその他様々なブース出展
など、多彩な催しが行われます。

日本で共進会といえ、家畜市場
で開催されるのが一般的でそのイ
メージはありませんでしたが、ロ
イヤル・ウィンターフェアが開催さ
れた国際展示場は、トロント近郊の
市街地にあり、繋留所なども全て仮
設で設置されていました。会場設
営、敷料や糞尿の後始末などは大変
かもしれませんが、アクセスが良

▼ 繋留所の様子



▲ 一般客も入れるかなりオープンな繋留所

く、さらに完全屋内型であることも一般来場者が多い理由であると感じました。

一般の来場者も繋留所に立ち入れるようでしたので、見学しました。共進会の繋留所特有の匂いは日本と同じでなんだかホッとしました。そして、国は変わっても出品牛の最終調整を行う酪農家の真剣なまなざしは変わりません。日本と違うなと感じたのは、一般来場者と思われる方々も

繋留所内を歩き回っていることです。

それも牛の真後ろの通路にまで入ることができ、出品者もそれを全く気にする様子が見えないのだから驚きです。防疫に関する考え方が違うのかもかもしれません。また、出品者が大きなスピーカーでガンガン音楽を流しているのも新鮮でした。恐らく日本だったらクレーンが入っていることでしょう。あまり神経質になり過ぎず、マイペースでオープンな国民性？を感じることができました。

待ちに待ったクライマックスであるグランドチャンピオン決定戦の雰囲気は圧巻でした。音と光を使ったライブ会場のような演出と会場の雰囲気。乳牛のことをよく知らない一般客が見てもワクワクする正しく「ショウ」であると同時に、多くの酪農家が「いつかあの舞台に立ちたい」そう思えるような場が演出されていると感じました。

11月15日(土)・16日(日)
帰国

ホテルを出発し、トロント空港へ。季節柄、落ち葉掃除は非常に大変そうですが、街中や住宅街は、都会と自然が融和するカナダらしい雰

▼ メイン会場中央のモニター
4方向に映し出されており、会場内のあらゆる場所に設置されたモニターやテレビで生中継されている



▲ ショウの様子

囲気が感じられました。

14時間のフライトを経て、日付が変わった16時頃に無事羽田空港に到着。非常に充実した旅の思い出とお土産を一杯に抱え、それぞれ帰路につきました。

最後に

今回の視察研修を今後の業務に活かしていくのは当然のことながら、社会人そして一個人としても、旅を通じて得た学びや経験を活かしていきたいと思っています。

日本の人口は年々減少し、超高齢化社会を迎え、酪農乳業界にとって

も後継者不足や牛乳・乳製品需要の減退など、今後より一層厳しい情勢となっていくとも言われています。そのような厳しく目まぐるしい変化をしていく時代の中で、酪農専門農協の全国連の一職員として、「酪農家や会員は何を求めているのか」「全酪連に求められていることは何か」をしっかりと考え、広い視野を持ち行動していきたいと思っています。

この度は、「ロイヤル・ウインターフェア視察とカナダ酪農視察研修」という貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

(福岡支所 馬場)

▲ グランドチャンピオン決定の瞬間

令和7年度 製造技術体験発表会・研修会を 開催いたしました

酪農部が事務受託する、全国農協乳業協会（会長 濱名靖 榛名酪農業協同組合連合会 代表理事専務）において、令和7年10月16日～17日にかけて「製造技術体験発表会・研修会」を、89名（事務局含む）の参加を得て開催いたしました。本発表会・研修会については、製造現場のQC活動（業務改善活動）を発表し、工場間での技術、知識の共有による相互研鑽及び、工場視察研修による知識習得を目的に、今回で第45回を迎えます。生処の連携を深めることを目的に、全国酪農青年女性会議の委員5名をご招待しました。

本年度は石川県金沢市「金沢東急ホテル」を会場に、5会員による発表がありました。それぞれの企業ごとに、直面する様々な課題に対して改善チームを構成し、改善活動の経過・成果について発表いただきました。

表彰式的最優秀賞者スピーチにおいては、大山乳業農業協同組合の代表者より「最優秀賞がいただけたと思うだけでなく大変驚きました。他の発表も大変すばらしい中で、長年の改善活動の積み重ねが評価されたこ

とがうれしい」とあり、改善活動の積み重ねを感じる内容でありました。また、会場に参加した方に、「二番よかった発表」に一票を投じてもらったところ、最優秀賞同様に大山乳業農業協同組合が「会場特別賞」を受賞され、製造現場においても、「DX」が大きな注目を集めていることの現れだと感じました。

他企業の発表についても、作業の標準化による「ヒューマンエラー防止」や、「物流効率化」「防虫対策」「資材ロス



▲ 最優秀賞・会場特別賞：大山乳業農業協同組合「COW BOYS」

削減」等に取り組む内容でありました。様々な現場での話に、会場参加者も真剣に発表に聞き入る姿が多く見受けられ、会場からの質問も多くあがり活発な質疑応答が行われました。

発表会終了後、中部酪農青年女性会議の久保貴光委員より『能登の酪農の「いま』と題して、震災や豪雨災害の当時の状況や復興状況等に



▲ 濱名会長（榛名酪連 代表理事専務）からの開会の挨拶



▲ 中部酪農青年女性会議の久保委員より、能登半島地震報告

ついて、現地で肌で感じられた言葉そのままに情報提供をいただきました。震災当時の倒壊した牛舎の映像や、そのままの状態の牛の亡骸の画像に、会場全体でも息をのむ参加者

も多くいました。

終了後に開催した懇親会では、翌日視察研修を実施するアイ・ミルク北陸(株)代表取締役社長 廣田孝司様よりご挨拶を頂戴し、また会の途中では全国酪農青年女性会議の中村委員長、西尾副委員長にも、本日の発表会の感想をいただきました。酪農家から見た今回の発表会は、「酪農家はバルククーラーに入れて終わりではなく、その先の製品品質等についても今後は意識を向けていかなければいけないと考えている中で、製造メーカーの様々な改善活動に感動した」と熱いメッセージをいただきました。

翌日17日は、アイ・ミルク北陸(株)並びに(株)中部機械製作所の工場視察を実施いたしました。

アイ・ミルク北陸(株)の視察では、PRルームモニターと工場内を映像でつなぎ、リモート工場の視察を実施いたしました。今までにない視察



▲ 廣田社長(アイ・ミルク北陸(株))からの懇親会来賓挨拶

方法に、今後自社でも取り入れたい等のご意見も多くありました。また、(株)中部機械製作所では、充填機製造をほとんどの部品などを内製化している製造現場を視察いたしました。初めて見る充填機等の組み立て工程や、部品の製造現場等を視察し興味深く話を聞く参加者の姿が多くみられました。

2日間の研修会の中で、普段なかなか交流の無い他社の製造職員の情報交換を闊達に行ない、懇親会や昼食でテーブルを共にした参加者同士で親睦が深まった様に感じました。来年度の開催は福岡県小倉市にお



▲ アイ・ミルク北陸(株)視察者 集合写真

いて実施することが審査委員会の中でも決定し、次回の開催に向け準備を進めて参ります。

農協プラントにおいて、生産者により搾られた生乳を無駄にせず、消費者に付加価値をもって提供できるように企業努力を進めており、この改善活動も無駄(ロス)を削減することや、消費者の声にこたえるための改善を通じて、牛乳乳製品の消費拡大に寄与していると実感する2日間でした。

来年度以降も、引き続き全国酪農青年女性会議とも協力し、生乳一体となった取り組みを進めていきたいと考えております。



▲ (株)中部機械製作所 視察者 集合写真

▼ 審査結果

	会員名	チーム名	発表テーマ
最優秀賞	大山乳業農業協同組合	COW BOYS	在庫管理のデジタル化と廃棄回収による省エネ改善
優秀賞	よつ葉乳業株式会社	宗谷工場 製造課	全粉乳/パレット輸送化の実現
	熊本県酪農農業協同組合連合会	外包装総本部	A3 / Flex ライン品目切り替え作業の見直し
優良賞	南日本酪農協同株式会社	防虫対策研究室	自主管理のすすめ「防虫対策の決定版!」
	日本酪農協同株式会社	人は間違える	ヒューマンエラーを防ぐための仕組みの構築と運用

※優秀賞・優良賞は発表順

酪農業に対する理解醸成活動報告①

酪農業に対する理解醸成活動は、一般消費者に対し、酪農が日本の国土保全、地域経済活性化に果たしている役割や、酪農を取り巻く情勢について、酪農家自らが消費者に説明することで、酪農への理解醸成を促進し、国産牛乳や乳製品消費定着化を図ることを目的に、国の補助事業である生乳生産者需要確保事業を活用して、2013年から継続して全国各地で行っている活動です。今年度は、国の補助事業である国産牛乳乳製品の需要拡大・競争力強化対策事業(国産牛乳乳製品の需要拡大等事業)を活用して実施いたしました。

全国各地から報告が届いていますのでその活動をご紹介します。ご協力いただいている関係者の皆様に深く御礼申し上げます。



栃木県



●道の駅等における酪農業に関する理解醸成活動

来場者：1,000人
日時：10月12日(日)
場所：道の駅やいた及びジョイフル本田宇都宮店
参加者：栃木県酪農青年女性会議

●ちとせ消費者まつり2025

日時：10月18日(土)
場所：北ガス文化ホール(千歳市)
参加者：北海道酪農青年女性会議
※詳細は18Pのトピックスに掲載しています。

北海道

埼玉県

●第49回寄居町産業文化祭

来場者：10,000人
日時：11月9日(日)
場所：賑わい創出交流広場YORIBA(寄居町)
参加者：埼玉酪農協、埼玉酪農女性部 他



●第23回協同組合まつり

来場者：3,800人
日時：10月5日(日)
場所：新潟市産業振興センター
参加者：新潟県酪連、新潟県酪農同志会、株式会社渡乳業



新潟県

●第46回石川の農林漁業まつり

来場者：25,000人
日時：11月1日(土)～2日(日)
場所：石川県産業展示館4号館
参加者：石川県酪農協



石川県

●信州伊那谷プリンフェス

来場者：800人
場所：道の駅「大芝高原」(南箕輪村)
日時：10月25日(土)
参加者：長野県酪農青年女性会議



長野県

岐阜県

●岐阜県農業フェスティバル

来場者：3,000人
日時：10月25日(土)～26日(日)
場所：岐阜県庁、県庁周辺
参加者：岐阜県酪連



●帝京科学大学西東京校舎学園祭「科大祭」

来場者：800人
日時：10月19日(日)
場所：帝京科学大学西東京校舎
参加者：愛知県内酪農家 他



山梨県

●リレーフォーライフジャパン2025 東三河(チャリティーイベント)

来場者:200人

日時:10月4日(土)～5日(日)

場所:シントー・ハート・アリーナ
前広場、キュパティーン
広場(豊川市)

参加者:愛知県内酪農家



●酪農業に関する理解醸成活動(特別事業)

対象者:50人

(果樹専攻の学生他)

日時:10月17日(金)

場所:愛知県立半田農業高校

参加者:愛知県内酪農家他



●2025あいち畜産フェスタ

来場者:2,500人

日時:10月11日(土)

場所:愛知県畜産総合センター(岡崎市)

参加者:愛知県内酪農家、愛知県酪農協、
乳業メーカー 他

※詳細は全酪連会報11月号の16Pのトピックスに掲載しています。



●岡崎城下 家康公 秋まつり

来場者:29,000人

日時:11月1日(土)～2日(日)

場所:乙川河川緑地 右岸(岡崎市)

参加者:愛知県酪協岡崎支所
青年女性部

●JAまつり

奥三河まるごとたべりん祭

日時:10月18日(土)

場所:桜淵公園木かげプラザ
(新城市)

参加者:愛知県内酪農家 他



●モーモースクール

対象者:40人

日時:10月20日(月)

場所:昭和町立下御糸小学校

参加者:三重県内酪農家、大内山酪農協、
三重県酪農協、(株)明治、協同乳業
他●(株)尾崎畜産御浜ファーム
モーモースクール

対象者:36人

日時:10月24日(金)

場所:紀宝町立井田小学校

参加者:三重県内酪農家、三重県酪農協



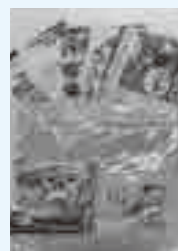
●酪農業に関する理解醸成活動(特別授業)

対象者:50人

日時:10月27日(月)

場所:三重県立

明野高等学校

参加者:三重県内
畜産農家、
(一社)三重県
畜産協会 他

●らくのうマルシェ2025in博多～I LOVE MILK ZENRAKUREN～

日時:9月27日(土)

場所:博多駅前広場 小規模イベントスペース

参加者:九州酪農青年女性会議、九州沖縄各県酪農青年事務局、
全酪連福岡支所 他

※詳細は全酪連会報11月号の18～19Pのトピックスに掲載しています。

●ハッピーミルクフェスタin福岡2025

日時:11月8日(土)

場所:ららぽーと福岡 メディアパーク

参加者:九州生乳販連、九州酪農青年女性会議 他

※詳細は全酪連会報今号23Pのトピックスに掲載しています。

●2025くまもと農業フェア

来場者:12,900人

日時:11月8日(土)～9日(日)

場所:農業公園(合志市)

参加者:熊本県酪農

青壮年部女性部協議会、
らくのうマザーズ他

●第51回畜産共進会(畜産交流・体験イベント)

日時:11月1日(土)

場所:沖縄県南部家畜セリ市場

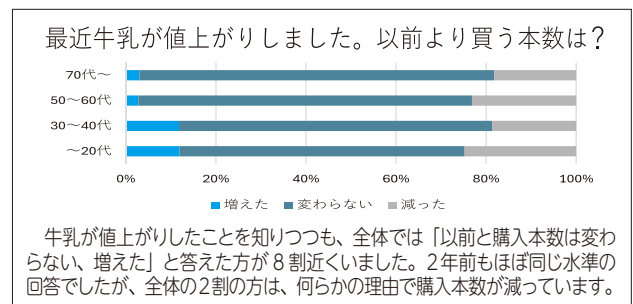
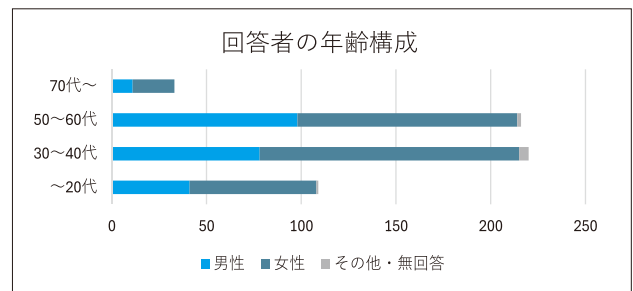
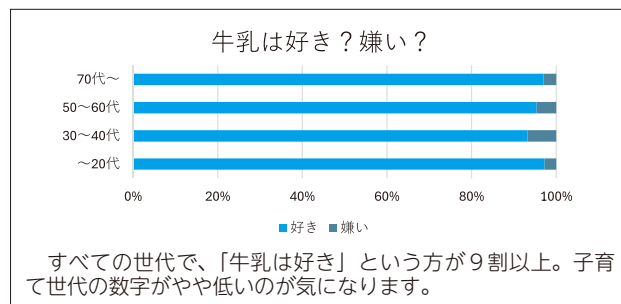
参加者:沖縄県酪農青年女性部他



アンケート集計結果

9月28日(日)に、新宿駅西口広場で行った理解醸成活動で、来場された皆様にアンケートをご協力いただきました。

その結果を報告します。総数 589 名にご回答いただき、男女比はほぼ 40 : 60 でした。



●アンケートでは、386 件のメッセージをいただきました！主なメッセージをご紹介します。

- ・乳製品は我が家の食卓に欠かせません。これからも日本産の美味しい牛乳飲み続けたいです。(60代、女性)
- ・農大出身なので実習に行ったことがあります。季節や牛の体調に左右されるなか努力されてるからこそ牛乳が飲めます。応援しています。(30代、男性)
- ・餌代が大変と聞いています。毎日飲んで応援します♥(50代、女性)
- ・テレビ番組で酪農家の苦勞を知りました。毎日飲むそして料理にも使う牛乳。これからも応援しています。(50代、男性)
- ・とても勉強になりました。良い試みだと思います。(40代、男性)
- ・一次産業は無くしてはならない重要な産業。国に支援してもらい頑張っていきましょう！(40代、男性)
- ・価格が上昇して購入しづらくなりましたが健康の為に飲み続けます。(60代、女性)
- ・牛乳は、実は日本人の体には合わないということを聞いたことがありましたが、牛乳を使った食事など好きなものは沢山あるし、日本の酪農家さんはこれ以上減ってほしくないのこれから買おうと思いました。(30代、女性)
- ・飼料の値上げで大変だと思いますが、子供も牛乳が大好きなので、これからも美味しい牛乳を飲めることを楽しみにしています！(30代男性)
- ・日本の畜産、農業がとても厳しい現状になっていると思いますが、消費で応援しています！(30代、女性)
- ・旅行に行ったらその土地の牛乳を飲むのも楽しみの一つです(40代、女性)

佐藤牧場

北海道枝幸町

牛に優しい牛舎で実現する
ゆとりのある家族経営

北海道枝幸町



▲ 佐藤良介さん(左)と本会神谷職員、愛犬ラブちゃん

この度ご紹介いたします佐藤牧場は、オホーツク海に面した枝幸町^{えさし}に位置しています。枝幸町は冷涼な気候を活かした家族経営体を主とする酪農専業地帯にあり、所属する宗谷南農業協同組合（向井地信之代表理事組合長）は、生乳出荷戸数88戸、出荷乳量は約52,379t（いずれも令和6年度末時点）となっています。

佐藤牧場は経営主であり今回お話しを伺った佐藤良介さん、良介さんの奥様、ご両親の4名で、搾乳牛80頭、育成牛50頭（うち約半数は預託）を飼養しています。

良介さんは現在33歳。4人兄弟の末っ子で、隣の雄武町にある普通高校を経て就農されました。高校卒業時にご姉はすでに別の進路に進んでいたこともあり、まずはやってみようと酪農の道に進んだところ、ご本人曰く「あつという間に後継



▲ 搾乳牛舎全景

者」。就農6年目に24歳という若さで経営者となりました。

経営委議を前に規模拡大へ

就農当時は48頭のつなぎ牛舎で営農されていましたが、経営委議が決まり、また良介さんのご結婚



▲ 牛舎内部 広い牛床でゆったりくつろぐことができる

により家族が増えたタイミングで、2017年に80頭の繋ぎ牛舎を新築されました。当時は初妊牛価格が高騰しており大幅な規模拡大には逆風であったものの、後継牛を豊富に持っていたため順調に増頭をすることができたそうです。牛舎の設計にあたっては当時の経営者であるお父様がメインとなり進められました。が、良介さんの要望により自動給餌

機が取り付けられました。「旧牛舎では手作業によるサイレージ給与により作業時間が長かった」という作業上の不便を解消すべく、佐藤牧場の自動給餌機はサイレージの搬出が可能となっており、配合飼料とサ

イレージがそれぞれ1日5回給与されます。現在の給与メニューは1番キザミサイレージ、2番乾草、配合飼料、圧ペントウモロコシ、ビートパルプ、ミネラルビタミンとなっています。サイレージの水分によりチェーンの劣化が早いと感じる部分もありますが、積み込みから運搬、給与まで全自動で行うことで、給餌作業の大幅な時間短縮・省力化を実現できています。

配合飼料から粗飼料へ

飼料設計にあたっては、BCSを重視し粗飼料をふんだんに給与することを意識しています。きっかけは牛舎を新築して2年目、それまで順



▲ 自動給餌機 小さな課題はあるものの圧倒的な作業時間短縮となった

調だった牛たちが次々に体調を崩したことです。牛舎の償還も始まっており赤字経営となり精神的に大変だったとのこと。当時所属していた4日クラブ、またその事務局でもある普及センターに相談した結果、配合飼料給与量過多によるものでした。配合を減らし粗飼料中心の給与を徹底したところ、牛たちの調子も良くなり、助張りなど体型も目に見えて良くなったそう。その時の教訓を生かし、現在も粗飼料にこだわり、糖蜜など給与の工夫もしています。佐藤牧場の採草地は74ha、チモシー主体となっています。1番草はバンカーサイレージ、2番草は乾草ラツプとし、適期の刈取りにより嗜好性

の良いサイレージ作りを心掛けています。

アルバイトは現役授精師の義父さん

作業は分担制で、搾乳は良介さんご夫婦、哺育は奥様、育成の除糞はお父様、搾乳牛舎の掃除はお母様、そして牧草の収穫は奥様以外の3人が行います。小さなお子さんもいる中、ゆとりのある経営を実現するためにアルバイトを雇っていますが、なんとそれはお義父様です。もと農





▲ 多回給餌により採食量も増加し、疾病も減少した

協職員のお義父様は授精師免許を取得しており、今なお現役授精師としてお仕事されているとのこと！搾乳や牧場作業の他にも、良介さんの担当である牛の状態確認、繁殖管理も手伝ってくださるそうで、「年齢もあるし、仕事もあるからあんまりお願いできないけどね」と労わりながらも、佐藤牧場にとって大変心強

い存在なのだそうです。

小さな工夫を積み重ねて

地域につながる牛舎×家族経営が多いこともあり、新牛舎をつなぎにすることについて迷いはなかったそうです。そこに、人がゆとりをもって作業できるように自動給餌機を設置したほか、牛がゆったり過ごせるよう牛床の幅を180cmと広く

とっているのも良介さんの提案です。つなぎ牛舎×自動給餌機さらに細部にもこだわることで、牛にも人にもストレスが少なく、将来の労働力不足にも備えています。ただ、トンネル換気により年間を通して換気の良い構造になっているにもかかわらず近年の猛暑は想定外とのこと。一昨年の猛暑を経験し、昨年は窓にカラス除けのネットを張り今年は窓の開閉により牛舎内の温度を快適に保つことができました。

良介さんは経営が厳しかった時に助けてくれた普及員とは異動となった今でも良好な関係を築いておられ、前述の

カラス除けネットなど、技術的な情報を得ては自分の牛群、牛舎にも試しているそうです。さて、全酪連の職員はといいますと、担当が変わる中、長い間変わらぬお付き合いを続けていただいております。

現在は担当職員が定期的に技術顧問とともに訪問し、育成舎へのマット設置など牛舎の改善を実施しています。「顧問にはいろいろ言われちゃうんだよねあ」と言いながら、笑顔で話してくださいました。

全共前の取材となりましたが、良介さんも共進会を見に行くのが好きとのこと。良い牛作りの参考になるのだそうです。良介さんにとって良い牛は粗飼料をたっぷり食べて作られる長持ちする牛。病気の少ない牛を揃えて、ロスの少ないゆとりのある経営を実現したいと考えています。「情勢が安定しないので、なかなか夢が描けないで



▲ 冬場は暖かいが、夏場は気温上昇につながる窓カラス除けネットを張り開閉が可能となった

すよ」とお話されましたが、搾乳牛舎の償還が見えてきたので、次は育成牛舎を整え、現在預託している育成牛を手元で育てたいそうです。また乾乳牛舎や牧草機械の更新、近年の猛暑から暑熱対策も重要だと考えています。将来の継承に向けて、魅力ある牧場を残せるように日々コツコツと取り組まれていることが伺えました。良介さんの描く将来の牧場に向けて、本会として少しでもお手伝いできるよう努めてまいります。

この度はお忙しいところ取材に快くご対応いただき、誠にありがとうございます。

札幌
支所発

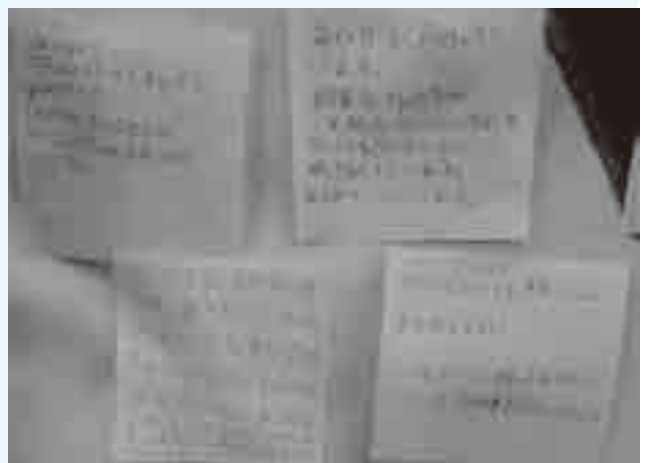
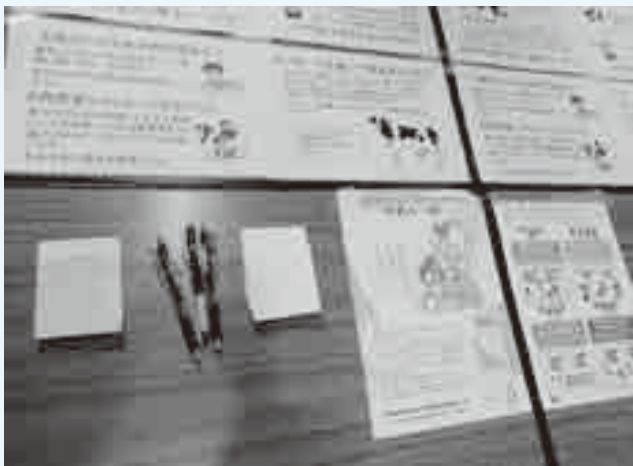
北海道酪農青年女性会議 牛乳が飲みたくなる理由は「美味しいから」

北海道酪農青年女性会議（中山斉委員長）は10月18日(土)に千歳市で開催された「ちとせ消費者まつり2025」に出展し、理解醸成活動を行いました。来場者に①牛乳を飲む理由、②酪農家へのメッセージをカードに記入いただき、保冷バッグとチラシをお渡ししました。参加された消費者からは「酪農家がいるから美味しい牛乳を飲めます!」「子ども成長に欠かせません。生産者には感謝の気持ちでいっぱいです」「うしがぎゅうにゅうをだす ごはんをたべさせてくれてありがとう（お子さんの筆跡）」「休みなく毎日本当にありがたいと思っています。感謝しかありません。毎日飲んで応援します!」「いつも美味しい牛乳をありがとうございます。おかげで健康です」といった210通もの応援のメッセージが集まりました。会場では「飼料が高騰していて大変なんだよね」と情勢

に理解を示す方や、「おからを牛乳で炊くと美味しいのよね」など新しい牛乳の使い方を教えてくださる方も。活動を通じ、たくさんの消費者との交流の機会となりました。（T.H）

●あなたが牛乳を飲む理由は？

- ①美味しいから（ダントツ!）
- ②健康に良いから（栄養があるから、背が伸びるから、骨が強くなるからなど）
- ③一緒に食べると美味しいから（コーヒーやシリアルなど）
- ④料理に使うと美味しいから（パンやお菓子など）
- ⑤その他
 - ・元気になる気がする
 - ・アレルギーをなおすため



仙 台
支所発

東北酪農青年女性会議 「令和7年度秋季研修会」を岩手県で開催！

11月18日(火)、東北酪農青年女性会議(斎藤忠義委員長：福島県)主催の秋季研修会が開催されました。会場の「つなぎ温泉 ホテル紫苑」(岩手県盛岡市)には約30名の会員が参集し、「投資について考える～今、どこにお金をかける?～」と題した講演を、全酪連購買生産指導部の田中眞二郎研究員を講師に行いました。参加者を4人程の班に分け、内容に沿って

参加者間でディスカッションを行い、緊急性や重要度、長期的な視点等での設備投資について考える内容となりました。本会購買事業情報誌「COW BELL」2025秋季号(NO.178)に掲載した「暑熱対策の設備投資を考える」の内容を補完した説明もあり、今後の設備投資を判断する方法について学んだ研修会となりました。(J.N)

名古屋
支所発

「第23回渥美デイリーフェスタ」開催

11月12日(水)、「第23回渥美デイリーフェスタ(愛知県酪農農業協同組合渥美支所主催)」が開催されました。

鈴木康弘地区生産者会議委員長の開会のあいさつで渥美デイリーフェスタは始まりました。

第1部のジャッジングコンテストは大変盛り上がり、順位当て投票も行われました。また、近くの小学生が訪れて、牛との記念撮影などを楽しんでいました。

第2部のバーベキュー大会も大変な盛り上がりで、地元田原牛に皆さん舌鼓を打たれていました。

バーベキュー大会の中での楽しみ抽選会では豪華賞品が準備され、当選番号が発表されるたびに参加者の皆さんの歓声が上がり、希望の賞品を手に入れた酪農家さんは大喜び。みなさん、終了までとても楽しんでいらっしゃいました。

乳製品のブースでは、全酪連や中央製乳株式会社などの乳製品が販売され、完売するほど酪農家の皆さんに好評でした。

渥美デイリーフェスタは毎年の恒例行事で、参加者の皆さんは毎年とても楽しみにされています。来年もまた開催され、大盛り上がりとなることでしょう。(U.Y)



◀ 子供たちも大喜び

▲ お楽しみ抽選会

鈴木地区生産者会議委員長 ▶
開会挨拶



▲ ジャッジングコンテスト風景

名古屋
支所発

「酪農体験会」で子供たちが大喜び

10月30日(木)、愛知県酪農農業協同組合尾張支所管内の原田芳房牧場で酪農体験会が開催されました。息子さんの原田拓芳さんの母校である、愛知県東浦町立生路小学校^{いくじしょうがっこう}の2年生48名（2クラス）が集まりました。

最初に、原田さんから牧場での行動（走らない、大声を出さないなど）のお願いの後、長い牛舎に並んで牛さんへ草やりをしました。小学校2年生には大きな牛さんは怖いらしく、遠くから草を投げる生徒さんもありましたが、慣れるにつれ、直接草を食べさせるようになりました。また、各クラスの代表2名ずつが子

牛への哺乳を体験しました。牛さんの旺盛な食欲に小学生の皆さんはびっくりしていました。

そのあと、本物の牛さんの乳しぼり体験では、希望者ということでしたが、ほとんどの子供たちが乳しぼりを体験し、「あったかい！」や「水鉄砲みたいにビュッと出た」など、とても楽しそうな様子でした。

体験後の質問コーナーでは、質問が止まらないほど多くの質問が飛び出し、引率の先生も困るほど興味を持たれました。今回の体験は子供たちにとって、すばらしい経験となったと感じました。（S.M）



▲ 子牛への哺乳体験



▲ 牛さんへ草やり



▲ 搾乳体験中

福岡
支所発

九州・沖縄地区酪農団体協議会／九州生乳販売農業協同組合連合会 役員合同視察研修 (第16回 全日本ホルスタイン共進会 北海道大会 視察)

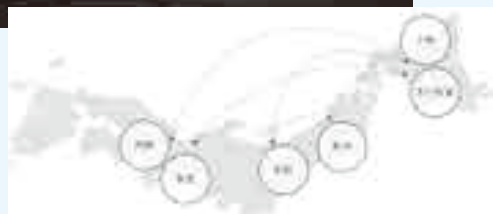
九州・沖縄地区酪農団体協議会（中村隆馬会長）と九州生乳販売農業協同組合連合会（中村隆馬会長）が令和7年度役員視察研修を合同で開催し、役員12名参加の下、10月24日(金)に北海道産生乳の域外搬出拠点のひとつである苫小牧東港の視察、ならびに10月25日(土)～26日(日)に北海道安平町の北海道ホルスタイン共進会場で開催された「第16回 全日本ホルスタイン共進会（全共）北海道大会」の視察を行いました。

●苫小牧東港 視察

道外移出量（R7年9月）	約 46,000t
うち新日本海フェリー	うち約 23,000t
（苫小牧東港 航路）	（約 17,250t、約 10 台／日）
（小樽港 航路）	（約 5,750t、約 30 台／日）
うちホクレン丸 （釧路港 航路）	うち約 23,000t



▲ 上段左より 有村組合長（鹿児島県酪協）、本川組合長（大分県酪協）、迫監事（九州生乳販連）、平島副組合長（宮崎県農協）、神島常務（九州生乳販連）、北村参事（鹿児島県酪協）、佐々木専務（佐賀県農協）
下段左より 野上監事（九州生乳販連）、中島組合長（福岡県酪協）、中村会長（長崎県酪連）、高宮城組合長（沖縄県酪協）、大川専務（熊本県酪連）、坂本支所長（全酪連 福岡支所）



▲ 新日本海フェリー航路（新日本海フェリー HPより引用）

●第16回全共 視察

第15回大会は、初のブロック開催として期待されていた九州・沖縄大会（宮崎県都城市）が、残念ながら新型コロナウイルスの影響で中止となりました。今大会は10年振りの開催となり、非常に多くの来場者でにぎわいました。

非常に高レベルな出品牛・リードマンによって繰り広げられるショウを、視察団の皆さまも真剣なまなざしで観戦し、この日のためにたゆまぬ努力を積み重ねてこられた九州・沖縄地区の出品者にエールを送っていました。

30頭が出品された第8部 ジュニア2歳クラスにおいて、「株式会社 S.T.M.HOLSTEIN（長崎県雲仙市／宮本貞治郎代表取締役）」の出品牛である「バツシヨンランド ルーク ジャガー」が、九州・沖縄地区初となる優等賞1席・ベストアダーを獲得する快挙を成し遂げたのです。この快挙に、九沖団体協・九販連の役員のみならず、関係者一同が喜び、心から祝福を贈りました。

今回の役員視察研修が、九州・沖縄地区ひいては日本の酪農乳業界のさらなる発展の一助になることを心より祈念いたします。（B.Y）



▲ 悔しくも中止となった第15回 九州・沖縄ブロック大会のポスターとマスコットキャラクター「南風ミル」



バツシヨンランド ルーク ジャガー号を引く宮本貞臣さん



福岡
支所発中国・四国・九州地域農協乳業協議会 四国乳業(株)にて
恒例の「秋季研修会」を催す

10月30日(木)、四国乳業(株)本社工場（愛媛県東温市）において、福岡支所が事務局を務める中国・四国・九州地域農協乳業協議会（会長：有村義昭南日本酪農協同(株)代表取締役会長）は、会員間の連携強化を目的として、農林水産省、Jミルクより講師を招いて毎年恒例の秋季研修会を催し、中国・四国・九州地域の農プラ14会員から役員を中心に総勢35名が集まりました。

研修会は、島原副会長（四国乳業(株)代表取締役社長）の開会挨拶からスタート、臨席を頂いた四国生乳販売農業協同組合連合会並びに愛媛県酪農業協同組合連合会の三瀬代表理事会長の挨拶後、工場視察、Jミ

ルク 山崎事務局次長より「国内における牛乳乳製品の需給動向について」、農林水産省畜産局牛乳乳製品課乳業班 白尾課長補佐より「最近の酪農・乳業をめぐる情勢について」講演・質疑応答を行いました。

研修会後の懇親会では、気心の知れた各社執行部が近況や需給状況、研修内容などについて、活発に意見・情報を交換されました。地域に根差した農プラが多様性を保ちながら生乳需給や物流効率化を図るためにも更なる連携の切っ掛けになればと考えています。開催にあたり四国乳業(株)の皆様のご協力に感謝いたします。（T.S）



▲（右）島原副会長（四国乳業(株)代表取締役社長）
（左）徳丸副会長（大山乳業農業協同組合 代表理事常務）



▲ 講演 山崎事務局次長（Jミルク）



▲ 講演 白尾課長補佐
（農水省牛乳乳製品課）



▲ 秋季研修会

福岡
支所発九州生乳販連が
「ハッピーミルクフェスタin福岡2025」を開催

11月8日(土)、ららぽーと福岡メディアパーク（福岡市博多区）で九州生乳販売農業協同組合連合会（中村隆馬代表理事会長）主催の『ハッピーミルクフェスタin福岡2025』が開催されました。

爽やかな秋晴れの中、週末で若者や親子連れ、観光客など多く賑わう大型商業施設のイベントスペース内で、九州酪農青年女性会議委員も牛柄ハッピーを着用し活動に参加しました。活動には九酪青女より中村委員長・井手口副委員長・片峰委員・松田顧問が参加し、来場者に向けて消費拡大・理解醸成活動を行いました。

ステージではトークショーや牛乳クイズ大会、牛の鳴き真似選手権、フロアでは搾乳・哺乳・牛さんのエサ展示や、牛乳の飲み比べ、ご協力いただいた企業の商品と牛乳の無料試飲・試食会、手作りバターづくり、会場周辺ではリーフレット配布など盛りだくさんのイベントとなりました。

会場入り口には、「全国の給食牛乳パック展示」のパネルと、「九州生まれの牛乳」と題して、九州の

スーパー等で販売されている家庭向けの牛乳の紙パックを張ったパネルを展示していました。これらのパネルに、多くの通行人は釘付けでした。私は、付近でリーフレットの配布をしていたので、「いつもこの牛乳飲んでます!」「学校でこれ飲んでるよ!」「このデザインは見たことない!」と言ったコメントがありました。中には、「高校生の娘が牛乳大好きで、ほんとにはあまりよくないかもしれないけど、わざわざ水筒に牛乳を入れて持って行っているくらいなのよ。」とお話くださった牛乳愛飲ファミリーなご婦人もいました。

今回のイベントは、消費者に身近なところから牛乳に興味を持ってもらえる、とても良い機会だと感じました。また、生産現場に携わる私たちにとっても、日々の仕事が多くの人々の健康や生活につながっていることを改めて実感しました。

こうしたイベントを通して、消費者と生産者が互いに理解を深め、さらに一丸となって業界を盛り上げていけたらと思いました。（T.M）



▲ 中村会長(九販連)



▲ 中村委員長(九酪青女)



▲ 井手口副委員長



▲ 片峰委員



▲ 松田顧問





第16回全共

10年ぶりの開催、北海道に400頭集結
北海道遠軽町の木村吉里よしのりさんに最高位賞

5年に一度の乳牛の祭典、第16回全日本ホルスタイン共進会（日本ホルスタイン登録協会主催）が10月25～26日、北海道勇払郡安平町で盛大に開催され、全国から酪農関係者が集結。約400頭の乳牛が出品され、頂点となる最高位賞に北海道紋別郡遠軽町の木村吉里さん出品の「サニー

ウェイアストロマツカチエン」（第16部・ホル種経産6歳以上）が輝いた。令和2年に宮崎・都城市で予定していた第15回九州・沖縄ブロック大会は、新型コロナウイルスの影響で中止を余儀なくされたため、開催は10年ぶり。共進会では、ホルスタイン種の未経産6部、経産10部の計16部に、

ジャージー種の未経産2部、経産2部を加えた全20部に区分して比較審査が行われた。審査委員長は家畜改良センターの入江正和理事長、審査委員は日本ホルスタイン登録協会の稲山智明氏、同会の國行将敏氏が務めた。

各部の激戦を勝ち抜き、ホルスタイン種で名誉賞と準名誉賞3組、ジャージー種で1組の計8頭の乳牛が選抜され、うち名誉賞4頭による最高位賞決定審査を実施した。最高位賞の牛について、稲山審査委員は「後乳房が高く幅もあるなど優れた乳房をしている。骨格構造も肩の付きや肋の開張などが素晴らしく、前肢と後肢の歩行も非常にスムーズだった」と評した。

（11月1日号）



▲ 会場は2日間にわたり立ち見する来場者で溢れかえった

令和6年度

牛乳・乳製品自給率、重量ベースで63%
生乳生産増えるも輸入品増加で横ばい

農水省が10月10日に公表した令和6年度の食料自給率のうち、牛乳・乳製品の食料自給率（重量ベース、

飼料自給率未反映）は前年度並みの63%だった。生乳生産量が増加した一方、主にチーズなど乳製品の輸入

も増加したため、数値としては横ばいだった。牛乳・乳製品の自給率は平成30～令和元年度は一時60%を割ったものの、以降は61～63%で推移している。

食料全体の自給率については、カロリーベースは4年連続で38%。一方、生産額ベースは63～68%で推移

する中、令和4年度には58%と落ち込んだが、令和6年度は特にコメや野菜、畜産物の国内価格上昇（豚肉は9%上昇）に伴う国内生産額増加により、前年度比3ポイント上昇の64%と上振れした。

（10月20日号）

高市内閣発足

農相に元農水省職員の鈴木憲和氏
「農は国の基なり。現場視点の農政で」

10月21日に発足した高市内閣で

は、農相に元農水省職員の鈴木憲和氏（衆議・山形2区、43歳）が就任した。翌22日の就任会見で鈴木農相は『「農は国の基なり」』。この言葉を胸に刻みながら、農水省職員とともに、なるべく多く現場に伺い、現場第一、現場の感覚を持って農林水産行政にあたっていきたい」と抱負を述べ、現場の視点に立った農林水産行政の実現に全力を尽くしていく姿

勢を強調した。

また、自らの原点となった、農水省職員時代の研修先での農家（福島県）とのエピソードを紹介。『日本の農政はコロナ変わる猫の目農政。この辺りでは農水省と逆のことをやると蔵が建つと言われるんだよ』。農家さんのこの言葉が、政治を志す原点となった」と振り返り「いつか、生産現場から見て、先に見える農政を実現したい」と述べた。
(11月1日号)

9月時点出荷戸数

全国で556戸、5.6%減の9453戸
離農加速、10年間で6000戸減る

中央酪農会議が10月31日に公表

した指定団体別出荷農家戸数（いわゆるインサイダー。沖縄県酪協含む）によると、令和7年度上期時点（9月）の酪農家戸数は前年同月比556戸、5.6%減の9453戸。2年前の令和5年度上期の7.1%減と比べ、減少幅はやや縮小しているものの、依然深刻な状況が続いている。

酪農家戸数は年間約500

600戸、3〜5%減で推移してきた一方、令和4年度は生産コストの急激な上昇等による経営悪化で離農が加速。10年前の平成27年度9月（1万5518戸、沖縄含まない）と比較すると、およそ6千戸も減少している。

(11月10日号)



▲ 就任会見する鈴木農相

全酪新報

- 人が牛乳を必要とし、牛肉を必要とし、緑を必要とする限り、酪農は誇り高い永久の仕事です。
- 明日へ向かって前進する酪農界の動きを全酪新報は正確に報道します。時に怒りの声を、時に喜びの声を…幅広くお伝えします。
- ご家族でご愛読いただける酪農専門紙です。
- 毎月1日、10日、20日発行、年間購読料は6,600円（税込・送料込）です。
- お支払（請求書到着後）は、郵便振替、銀行振込、クレジットカード決済がご利用いただけます。
- 見本紙ご希望の方はお申し出下さい。無料です。
(見本紙にバックナンバーは含まれません)

全酪新報/
購読お申込フォーム



一般社団法人 全国酪農協会

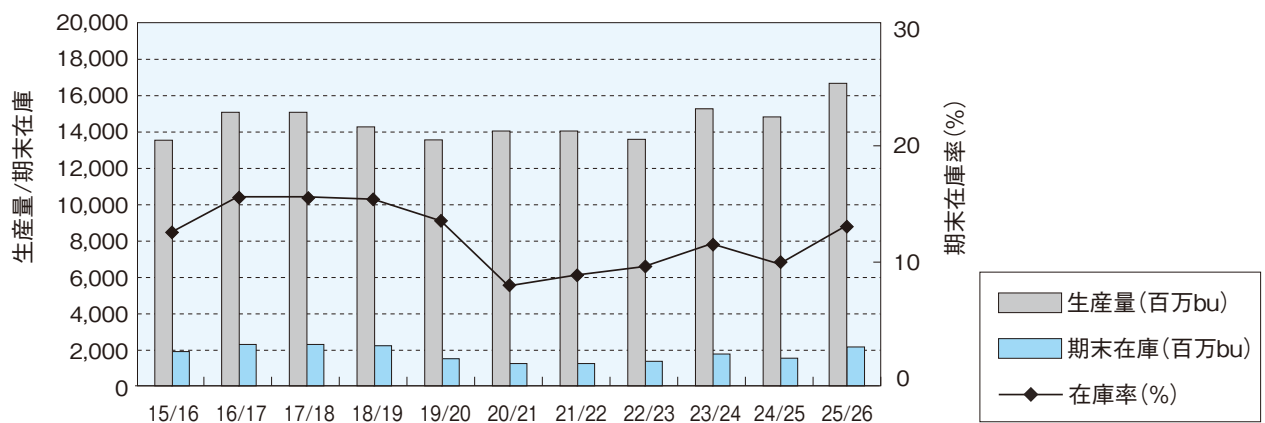
電話 03 (3370) 7213
www.rakunou.org



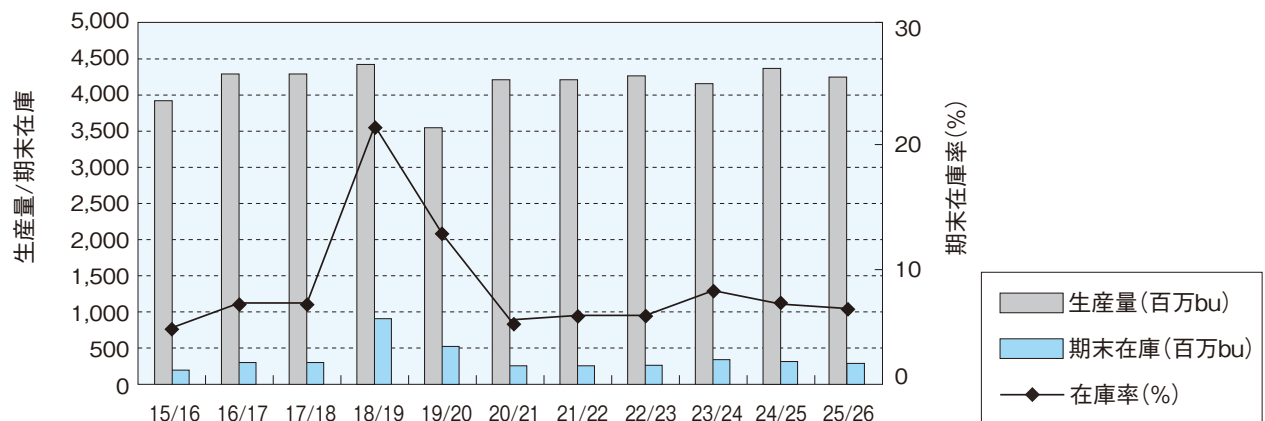


11月14日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想		24/25年産	25/26年産
	作付面積 (百万エーカー)	90.9	98.7
	単 収 (ブッシェル/エーカー)	179.3	186.0
	生 産 量 (ブッシェル)	166億7,500万	183億900万
	需 要 量 (ブッシェル)	151億4,400万	161億5,500万
	期末在庫 (ブッシェル)	15億3,200万	21億5,400万
	在 庫 率	10.12%	13.33%
トウモロコシ 相場動向	今回の需給報告では旧穀期末在庫、新穀期末在庫共に増加となった。新穀の単収が予想より減らされなかったことからシカゴ定期は大きく値を下げる展開となった。しかし、需給発表前までに大きく値を上げている状況で前期比で未だ高値となっている。		
大豆粕 相場動向	米中貿易合意への期待感から需給発表前から暴騰していた大豆粕相場は、今回の需給発表で大豆の期末在庫は減少したが、調整も入り値を下げている。ただし、需給発表前までの上げ幅が非常に大きく、為替円安も重なり大豆粕価格は前期対比で極めて大きな値上げとなっている。		
糟糖類	【一般フスマ】 麺類の需要増加やインバウンド等の影響で発生は堅調に推移する見通し。需要についても安定している。このため需給は安定しており、受渡は問題ないと思われる。		
	【グルテンフィード】 グルテンフィード～10月から値上げになったが、地域によっては引き続き需要が強いためタイトな状況は変わらずとなっているが、一部地域では引取の減少が見られる。また、遠隔地は輸入玉が入船する見込で受渡で大きな混乱はないと思われる。		
海上運賃	米中貿易合意を受けた大豆取引活発化への期待感高まりに加え、冬へ向けた電力需要の石炭の荷動きが再度盛り上がりを見せたことから、海上運賃は堅調に推移している。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移





北米コンテナ船情勢	北米西海岸を中心とする航路では、混雑が緩和する傾向が見られていましたが、年末商戦に向けた貨物の増加や船腹スペースの減少により滞船が発生し、本船スケジュールに乱れが生じています。欧州航路では、スエズ運河近くの紅海でイエメンの親イラン武装組織フーシ派による商業船への攻撃が相次いだことを受け、各船社はスエズ運河の航行を見合わせ、南アフリカの喜望峯経由へと航路変更をしていました。しかし、イスラエルとハマスの停戦合意が成立したことにより、一部の船社は紅海の通航を再開し始めました。現段階では試験的再開ですが、全面再開となれば、航海日数の大幅な短縮、船運賃の削減、接続港の混雑緩和が期待されます。北米航路における船腹予約状況は8月11日に正式署名された関税停止の延長措置により市場は落ち着きを見せていましたが、10月下旬以降、年末商戦を見据えた前倒し出荷と北米西岸や東岸港湾での混雑の再燃により増加しています。
アルファルファ	<p>【ワシントン州】 主産地であるワシントン州コロンビアベースンでは、大半の圃場で25年産の収穫作業が終了しています。25年産は春先の生育に適した冷涼な気候が続いていましたが、中～南部の地域では降雨被害が発生したことで1番刈は上級品が限定的となりました。2番刈は好天に恵まれたことで色目が綺麗な品質が多く収穫され、3～4番刈は降雨被害や山火事による煙の影響を受け中～低級品が中心の発生となりました。輸出向けは低調な需要が続いておりましたが、徐々に中東や中国、韓国から引き合いが増えてきており産地相場は堅調に推移しています。</p> <p>【オレゴン州】 主産地であるオレゴン州クラマスフォールズでは4番刈の収穫作業が終了しています。降雨の影響で1～3番刈の収穫スケジュールが遅れたことにより4番刈まで生産した圃場は例年より減少しています。4番刈は1～3番刈までの降雨で圃場が湿っていることで、原料草に多く水分を含み乾燥に時間を要したことから、葉付が悪いアルファルファも一部で発生していますが、大半は高成分の品質が中心で米国内酪農家向けに高値で取引されています。同州クリスマスバレーでは3番刈の収穫作業が終了しています。クラマスフォールズ同様に収穫スケジュールが遅れましたが、収穫期の天候に恵まれたこともあり、上級品が中心となっています。</p> <p>【カリフォルニア州】 カリフォルニア州南部のインペリアルバレーでは、DIP（休耕地政策）を行っていない圃場で6番刈の収穫作業が終盤を迎えており、7番刈の収穫作業が開始されています。産地では気温が冷涼になっていることから成分値は回復し始めています。灌漑局の発表によると、10月15日時点でのアルファルファの作付面積は138,083エーカーとなっており、前年同期の139,302エーカーからやや減少しています。</p>
米国産チモシー	主産地であるワシントン州コロンビアベースンおよびエレンズバーグでは25年産の収穫作業が終了しています。1番刈は冷涼な気候の中、生育が進んだこともあり、上級品の発生が中心で中～低級品の発生は限定的となりました。2番刈についても天候に恵まれたことで、茶葉が少ない馬糧向けの上級品の発生が中心となりましたが、収穫が進むにつれ降雨も発生し、中～低級品も発生しました。上級品中心となった作柄により需要は堅調に推移しています。
スーダングラス	主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、25年産の収穫作業が終了しています。一部の輸出業者が保有していた旧穀在庫も解消されたことにより、25年産の作付面積は増加しましたが、産地相場の低迷が続き、生産農家の作付意欲が低下したため、2番刈を行わず1番刈で収穫を終了した圃場も多く見られました。灌漑局によると、10月15日時点でのスーダングラスの作付面積は10,613エーカーで、前年同期の3,947エーカーから増加しています。
クレイングラス	<p>クレインは全酪連の登録商標です。</p> <p>主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、大半の圃場で25年産の収穫作業が終了しています。DIP終了後に収穫された圃場では、茎が固く茶葉が多い低級品の発生が中心となっています。灌漑局の発表によると、2025年10月15日時点でのクレイングラスの作付面積は24,595エーカーとなっており、前年同期の22,624エーカーから増加しています。</p>
豪州産 オートハイ・ ウィートストロー	<p>25年産オートハイの収穫作業が各地域で順調に進んでいます。</p> <p>【西豪州】 概ね収穫作業が終了しています。10月上旬に降雨がありましたが、例年と比較すると30%程度の降水量のため、収穫された品質に大きな影響は出たおらず上級品の発生が期待されています。収量については、生育期間中の天候に恵まれたことにより、多くの地域で例年並～例年以上の見込みとなっています。ウィートストローについては現在収穫作業が開始されています。</p> <p>【南豪州】 収穫作業は終盤戦を迎えています。10月は例年をやや上回る降水量となりました。昨年は記録的な干ばつで輸出向けに適さない品質が大半となりましたが、今年は生育期間中に適度な降雨もあり、見た目が良好な上級品も収穫される見通しです。収量は例年をやや下回ると予想されています。</p> <p>【東豪州】 収穫作業は中盤戦を迎えています。10月は例年を上回る降水量となりました。一部の圃場で降雨被害が出ていますが、生育期の天候に恵まれたこともあり、上級品も発生しています。今後も断続的に降雨予報も出ており、収穫や乾燥が遅れる可能性も出ているため、品質の懸念も出ています。また、豪州航路においては、世界的なコンテナ需要の増加に伴い、本船スケジュールの遅延が継続しています。11月以降はサンクスギビングデーや、年末にかけてコンテナ需要が高まることも予想されており、スケジュールへの影響が懸念されているため注視が必要です。</p>

※粗飼料情勢の全文は弊社ホームページに掲載しています。

ZENRAKU Winter Gift 2025

取扱期間 2025年 11月17日 ～ 2026年 1月30日 ※一部商品のぞく。

全酪乳製品セットA

税込**4,212円** (本体3,900円)



内容：とろけるスライスチーズ126g/スライスチーズ126g/スモークチーズ120g/6Pチーズ108g/酪農家ぬるチーズスプレッド80g/酪農家バター（加塩）200g：各1個
アレルギー物質：乳



全酪乳製品セットB

税込**5,940円** (本体5,500円)



内容：とろけるスライスチーズ126g/スライスチーズ126g/スモークチーズ120g/6Pチーズ108g/全酪ゴーダ125g/酪農家ぬるチーズスプレッド80g/酪農家バター（加塩）200g/全酪パウダーチーズ70g：各1個
アレルギー物質：乳



全酪 牛飼いのバター5個セット

税込**4,860円** (本体4,500円)



内容：牛飼いのバター（加塩）200g×5個
アレルギー物質：乳



その他にもたくさんの商品をご用意しております。
ぜひオンラインショップにてご確認ください！

ご注文方法

全酪連ギフトオンラインショップ
(<https://zenrakuren.stores.jp/>)



取扱上のご注意

1. 配送地区に制限のある場合もありますので、ご確認ください。なお、離島につきましては原則として配達できませんので、予めご了承ください。
2. お申込後のご返品、お取り消し（お届け先様ご不在、ご移転ご転居、受け取り拒否等による）扱いはいたしませんので予めご承知おきください。
3. お届け先様のご不在における取扱は、配送業者の取扱規定により対応します。
4. 掲載商品の価格には消費税及び配送料が含まれております。
5. 問合せ内容・商品デザイン及び配列については、お断りなく一部変更する場合があります。
6. 商品は十分にご用意しておりますが、在庫がなくなり次第終了とさせていただきますのでご了承ください。
7. **冷凍** **冷蔵** マークの付いている商品はそれぞれ冷凍、冷蔵でのお届けになります。
8. **簡易** **全** マークの付いている商品はそれぞれ簡易包装、全包装となります。また、表示のない商品には包装はありません。（簡易包装とは、包装紙を帯状に商品に巻きつけた包装形態のことです。）
9. **短** **短** マークの付いている商品はそれぞれ普通サイズ、短冊サイズの熨斗となります。
10. **多入** マークの付いている商品は熨斗の表書きにご指定の文字が入られます。商品によりスペースが異なり、全ての文字を入れられないこともございます。ご了承ください。
11. **お歳暮** マークの付いている商品は熨斗の表書きがお歳暮のみとなります。

全国酪農業協同組合連合会

- 本所 酪農部
- 札幌支所
- 仙台支所
- 名古屋支所
- 大阪支所
- 福岡支所

〒151-0053
〒060-0003
〒980-0014
〒460-0008
〒532-0011
〒812-0016

東京都渋谷区代々木 1-37-2 酪農会館
札幌市中央区北 3 条西 7-1 酪農センター
仙台市青葉区本町 2-10-28 カメイ仙台グリーンシティ 8F
名古屋市中区栄 1-16-6 名古屋三蔵ビル 3F
大阪市淀川区西中島 5-14-10 新大阪トヨタビル 6F
福岡市博多区博多駅南 1-2-15 事務機ビル 7F

TEL 03-5931-8008
TEL 011-241-0765
TEL 022-221-5381
TEL 052-209-5611
TEL 06-6305-4196
TEL 092-432-2121

FAX 03-5931-8025
FAX 011-241-0769
FAX 022-221-5384
FAX 052-209-5614
FAX 06-6305-4899
FAX 092-431-6313

叙 勲

旭日双光章



臼井 勉 氏

現 酪農とちぎ農業協同組合 代表理事組合長
現 栃木県酪農協会 会長
現 栃木県牛乳普及協会 会長
現 日本酪農政治連盟栃木県支部連合会 会長
現 一般社団法人全国酪農協会 副会長
現 日本酪農政治連盟 副委員長
現 公益社団法人栃木県畜産協会 代表理事副会長
現 全国酪農業協同組合連合会 理事

旭日双光章



長恒 泰治 氏

元 おかやま酪農業協同組合 代表理事組合長
元 中国生乳販売農業協同組合連合会 代表理事会長
元 一般社団法人日本ホルスタイン登録協会 副会長
元 全国酪農業協同組合連合会 理事

栄えある 秋の叙勲

政府は11月3日、秋の叙勲受章者を発表しました。
全酪連関係及び酪農関係からは、次の方が受章の名
誉に輝きました。心からお祝い申し上げますとともに、
益々のご活躍をお祈りいたします。



乳牛産地情報

令和7年12月1日現在

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇩……やや弱含み ↓……弱含み

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	20~30	→	札幌管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内が月計95.7%・累計100.9%、苫小牧管内が月計95.4%・累計99.4%となっております。12月の初妊牛動向といたしましては、2月~3月中旬分娩が中心となります。初妊牛については、春分娩も出回り始めるため、道内外で需要があると考えられ、価格は堅調に推移すると見込まれます。腹別の出回り資源状況については、雌雄選別腹、F1腹ともに潤沢にある状況です。和牛受精卵腹につきましても出回りはあります。高ゲノム牛の出回りも増えております。高能力牛の初妊牛販売が多い地域でもありますので、引き続き注視をいただきますようお願いいたします。
	初妊牛	58~68	→	
	経産牛	35~45	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	25~35	↑	根釧管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内が月計100.3%・累計103.1%、中標津管内が月計98.3%・累計101.0%となっております。12月の初妊牛動向といたしましては、2月下旬~3月中旬分娩が中心となります。価格帯につきましては、先月に引き続き横這いとなっておりますが、貴重な春分娩にもかかるため引き合いは強くなる可能性があります。腹別では、F1腹・和牛受精卵移植腹が堅調に推移しております。雌雄選別腹に関しましては、中クラス以上の牛は一定の引き合いがありますが、F1腹・和牛受精卵移植腹と比較すると軟調に推移しております。育成牛の価格は強含みで推移し、経産牛については即戦力となる牛は引き合いが強くなると見込まれます。
	初妊牛	58~68	→	
	経産牛	35~45	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	25~35	↑	帯広管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、月計100.3%・累計102.9%となっております。12月の初妊牛動向といたしましては、2月~3月中旬分娩が中心となります。初妊牛については、春分娩が出回り始める時期となり、道内外からの需要が見込まれます。需要が高まっていくことが予想されますので、価格については堅調に推移する見込みです。腹別の資源状況については、雌雄選別腹が多い地域とF1腹が多い地域で差がありますが、ともに潤沢にある状況です。また、経産牛については、道内からの引き合いが非常に強く、先月同様に強含みが予想されます。育成牛については、生まれ月により違いはありますが、来年夏授精、春分娩に期待できる育成牛は、強含みで推移するものと見込まれます。
	初妊牛	58~68	→	
	経産牛	40~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	20~30	→	道北管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内が月計102.0%・累計101.1%、北見管内が月計99.5%・累計101.7%となっております。12月の初妊牛動向といたしましては、2月下旬~3月中旬分娩が中心となり、冬分娩中心となります。腹別の出回り資源状況については、雌雄選別腹、F1腹ともに資源は豊富にあり、頭数を確保できる状況です。年末に向けて需要は落ち着きを見せ、出回り頭数も豊富なことから、相場につきましてはやや弱含みで推移すると思われます。経産牛については、乳価上昇により秋口にかけて即戦力牛の需要が高まると見込まれ、価格は堅調を維持し横這で推移する見通しです。
	初妊牛	53~63	⇩	
	経産牛	35~45	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	25~35	↑	道内全体の11月中旬までの生乳生産量前年比は月計99.5%・累計101.9%となっております。12月の初妊牛動向といたしましては、春分娩に差し掛かる牛が取引され始めることから、引き合いは徐々に強まるものと予想されます。道内の資源状況としましては、地域差はあるものの、自家保有の傾向が強いことから、酪農家からの出回りは抑制された状況で推移するものと予想されます。例年、年末は相場が一旦落ち着き、年明けから引き合いが強くなる傾向にあることから、都府県の酪農家におかれましては、北海道からの導入予定や資源確保の計画がありましたら、年内での購買を強くお勧めいたします。
	初妊牛	58~68	→	
	経産牛	35~45	→	

今月の表紙

今月の表紙は「第15回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「きれいにしてやるけんね!」(長崎県田中さとみ氏 撮影)です。



編集後記

●今年も残すところあとわずか。全酪連会報も本号で令和7年最後の号となりました。ご愛読いただきました皆様、そして取材・寄稿などで発行にあたり多大なるご協力をいただきました皆様に、厚く御礼申し上げます。この1年を振り返ると、本当にいろいろなことがありました。ぜひ次ページの総目次で振り返っていただければ幸いです。

新しい年が、皆様にとって健やかで笑顔あふれる1年となりますよう心からお祈り申し上げます。

●会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。
 shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

令和7年12月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 12月号 No.723

●編集・発行人 飯島洋一

●発行 全国酪農業協同組合連合会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館
TEL 03-5931-8003 <https://www.zenrakuren.or.jp/>

全酪連会報 総目次 (2025.1～12月号)

● 1月	新年のご挨拶／ 全国酪農業協同組合連合会 代表理事会長 隈部洋 2 農林水産省 畜産局長 松本平氏 4 酪農とのかけはし／らくのうマザーズ 阿蘇ミルク牧場 6 令和6年度 全酪連・全国酪農協会 会員職員研修会 9 酪農業に対する理解醸成活動報告2 12 日本酪農見て歩紀／株式会社朝霧高城田牧場 静岡県富士宮市 14 酪農トピックス／東京ガサ料理教室 たっぷり牛乳レシピで牛乳消費!(総務部)ほか 17 一般社団法人 全国酪農協会の酪農共済制度のご紹介 3 19 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和6年12月) 20 今月の表紙／NOTO未来へ 23 今月のこどもギャラリー／西尾市立室場保育園 5歳(中部) 石川 幹大さん 24
------	---

● 2月	若手後継者の本音／中西裕哉さん 2 監査室だより／内部監査や自主検査の「目的」と「必要性」について 5 日本酪農見て歩紀／株式会社松崎牧場 岡山県岡山市 7 酪農トピックス／「High School Loves MILK!! in 都立農産高校」 本会が特別授業を開講!! (酪農部)ほか 10 令和7年各地域酪農青年女性会議酪農発表大会 開催のご案内 13 酪政連活動報告 14 一般社団法人 全国酪農協会の酪農共済制度のご紹介4 15 農林水産省／ランピースキン病の早期発見とまん延防止対策のお願い 16 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和7年1月) 18 人事異動 20 今月の表紙／うしさん! いまから美味しい餌やるぞ〜 21 今月のこどもギャラリー／淡路市立北淡小学校 4年(西日本) 上田楓さん 22
------	---

● 3月	酪農とのかけはし／松平啓吾先生 2 企画管理部だより／令和6年度 決算に向けて 5 令和5年度 会員概況調査より 8 令和6年度 全酪連・全国酪農協会 理事・監事・職員研修会 12 酪農業に対する理解醸成活動報告3 15 日本酪農見て歩紀／今山牧場 宮崎県都城市 17 酪農トピックス／「第7回らくのうマルシェ」を開催しました(酪農部)ほか 21 農林水産省／春先に向けたサシバエ対策で牛を病気・ストレスから守りましょう! 26 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和7年2月) 28 一般社団法人 全国酪農協会の酪農共済制度のご紹介5 30 第52回 全国酪農青年女性酪農発表大会 開催のご案内 31 作品募集のお知らせ 32 今月の表紙／モー きもちいい 33 今月のこどもギャラリー／本宮市立本宮小学校 5年(東北) 伊東怜美さん 34
------	---

● 4月	若手後継者の本音／榊原大誠さん 2 令和6年度 全酪連・全国酪農協会 理事・監事・職員研修会 4 ランピースキン病の防除対策 7 農林水産省／韓国で口蹄疫が発生! 8 日本酪農見て歩紀／(株) aDe Farm 長野県伊那市 10 酪農トピックス／「第52回関東甲信越酪農青年女性会議酪農発表大会」開催 13 酪政連活動報告 15 全酪新報ダイジェスト版 16 人事異動 18 全酪連2025年のニューフェイスが集結! 18 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和7年3月) 19 第52回 全国酪農青年女性酪農発表大会 開催のご案内 21 作品募集のお知らせ 22 今月の表紙／春爛漫 23 今月のこどもギャラリー／七合小学校 3年(関甲信) 興野蒼季さん 24
------	---

● 5月	酪農とのかけはし／公益財団法人中国四国酪農大大学校 2 第76年度(令和7年度)事業計画 案 4 酪農部だより／酪農乳業需給変動対策特別事業令和7年度よりスタートします 8 総務部だより／オンラインカジノによる賭博は犯罪です! 10 日本酪農見て歩紀／斎藤牧場 福島県喜多方市 11 酪農トピックス／多くの酪農家に支えられ、北海道も50回! 〜第50回北海道酪農経営発表大会開催〜(札幌)ほか 14 全酪新報ダイジェスト版 20 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和7年4月) 22 広告 24 作品募集のお知らせ 25 第52回 全国酪農青年女性酪農発表大会 開催のご案内 26 今月の表紙／真剣な眼差し 27 今月のこどもギャラリー／認定こども園北陽幼稚園・第2北陽保育園 5歳(北海道) 高城葵さん 28
------	--

● 6月	若手後継者の本音／小久保海さん 2 第52回全国酪農青年女性酪農発表大会 発表者決定!! 5 品質保証室だより／夏場のエサ管理・食品安全文化 8 日本酪農見て歩紀／十勝農協連湧洞牧場 北海道広尾郡大樹町 10 酪農トピックス／「第14回青木農業祭2025」開催 〜農業をもっと身近に〜(東京)ほか 13 栄えある春の叙勲・褒章 17 水際対策で家畜伝染病予防を! 18 全酪新報ダイジェスト版 20 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和7年5月) 22 第8回 らくのうマルシェ開催のお知らせ 24 今月の表紙／お掃除するぞ〜!私も手伝うぞ〜! 25 作品募集のお知らせ 26 第52回 全国酪農青年女性酪農発表大会 開催のご案内 27 今月のこどもギャラリー／あさひ保育園 5歳(九州) 小川勇心さん 28 全酪連ギフト商品について 29
------	---

● 7月	酪農とのかけはし／(株)シン・ベッツ 2 父の日に牛乳を贈ろう! 前編 5 第51回 らくのうこどもギャラリー 入賞作品紹介 10 日本酪農見て歩紀／花井紀仁牧場 愛知県大府市 14 酪農トピックス／全国農協乳業協会 「令和7年度定時総会」の開催について(酪農部)ほか 17 広告 23 新・農業人フェア 23 全酪アカデミー活動報告 24 酪政連活動報告 25 全酪新報ダイジェスト版 26 全酪連ギフト商品について 28 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和7年6月) 29 今月の表紙／母になったマノン 31 今月のこどもギャラリー／会津若松市立松長小学校 1年(東北) 村上陽香さん 32
------	--

● 8月	若手後継者の本音／澤瀬泉織さん 2 第76年度(令和7年度)通常総会開催される 概要 4 購買生産指導部だより／DMSシステム 令和6年集計結果 6 第52回 全国酪農青年女性酪農発表大会 酪農経営発表の部 8 日本酪農見て歩紀／前田牧場 大阪府堺市 12 父の日に牛乳を贈ろう! 後編 15 酪農トピックス／全国農協乳業協会 「令和7年度クレーン対応研修」の開催について(酪農部)ほか 20 第15回 酪農いきいきフォトコンテスト 入賞作品紹介 24 人事異動 25 全酪新報ダイジェスト版 26 全酪連ギフト商品について 28 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和7年7月) 29 今月の表紙／子宮捻転お産中 がんばれ〜牛さん 31 今月のこどもギャラリー／会津若松市立諫達小学校 5年(東北) 矢柳瑠乃さん 32
------	---

● 9月	酪農とのかけはし／獣医師 寺内宏光先生 2 第76年度(令和7年度)通常総会開催される 詳細報告 5 第52回 全国酪農青年女性酪農発表大会 酪農意見・体験の部 8 第52回 全国酪農青年女性酪農発表大会にて講演 12 日本酪農見て歩紀／(農)牧の地牧場 長崎県佐世保市 13 酪農トピックス／全国農協乳業協会 「令和7年度製造実務者向け研修」の開催について(酪農部)ほか 17 広告 19 水際対策で家畜伝染病予防を! 2 20 全酪新報ダイジェスト版 22 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和7年8月) 24 農業経営統計調査当農類型別経営統計にご協力ください 26 今月の表紙／団子4兄弟 27 今月のこどもギャラリー／千葉市立鶴沢小学校 1年(関甲信) 小幡莉菜さん 28
------	--

● 10月	酪農とのかけはし／(有)知多動物病院 獣医師 山本佳絵さん 2 酪農業に対する理解醸成活動 新宿で開催 4 総務部だより／下請法の改正について 7 日本酪農見て歩紀／清水牧場 群馬県高崎市 10 酪農トピックス／第45回九州・沖縄地区酪農団体職員親善スポーツ大会 〜九州沖縄はひとつ! 2年ぶり177名参加!!〜(福岡) 13 全酪新報ダイジェスト版 14 農林水産省／ランピースキン病の早期発見とまん延防止対策のお願い 16 全酪アカデミー活動報告 18 広告 19 酪政連活動報告 20 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和7年9月) 21 今月の表紙／みんなに今日の出来ごとを報告中 23 今月のこどもギャラリー／仙台市立富沢中学校 中学1年(東北) 伊藤亜珠さん 24
-------	---

● 11月	若手後継者の本音／小川香奈さん・小川敏弘さん 2 酪農部だより／酪農生産基盤の維持強化へ、 新会社「らくのう乳業株式会社」設立 4 日本酪農見て歩紀／佐々木一憲牧場 宮城県大崎市古川 6 全酪新報ダイジェスト版 10 水際対策で家畜伝染病予防を! 3 12 酪農トピックス／「令和8年度入会内定者内定式」開催!(総務部)ほか 13 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和7年10月) 21 今月の表紙／いじいのお手伝い 23 全酪連ギフト商品について 24 今月のこどもギャラリー／認定こども園 北陽幼稚園・第2北陽保育園 5歳(北海道) 澤田夏菜さん 28
-------	---

● 12月	若手後継者の本音／皆川侑平さん 2 第16回 全日本ホルスタイン共進会 開催 4 第29回 ロイヤル・ウィンターフェア視察とカナダ酪農視察研修 6 令和7年度 製造技術体験発表会・研修会を開催いたしました 10 酪農業に対する理解醸成活動報告1 12 日本酪農見て歩紀／佐藤牧場 北海道枝幸町 15 酪農トピックス／北海道酪農青年女性会議 牛乳が飲みたくなる理由は「美味しいから」(札幌)ほか 18 全酪新報ダイジェスト版 24 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和7年11月) 26 全酪連ギフト商品について 28 栄えある秋の叙勲 29 今月の表紙／きれいにしてやるけんね! 30 総目次 31 今月のこどもギャラリー／大玉村立大山小学校 1年(東北) 塩澤結果梨さん 32
-------	---

今月の

らくのう

こどもギャラリー

入賞作品紹介



おはよう

大玉村立大山小学校 1年（東北） 塩澤緋果梨

今月の入賞作品は…

大玉村立大山小学校 1年（東北）の塩澤緋果梨さんの作品です。

牛さんとヤギさんが黒い輪郭線で縁取られ、力強さが伝わってくる作品です。近景の牛さんとヤギさん、遠景のお家や水平線など、画面構成がとても良いと思います。何かに驚いたように振り向く牛さんの表情と簡略されたヤギさんの表情の対比も面白いです。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第51回らくのうこどもギャラリー」で全国304点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議